

平戸小 学校だより 9月号

平戸

令和 4 年 8 月 3 1 日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町 542 番地
TEL 045-821-2329
FAX 045-826-2005



学校 HP、校長室だよりが更新されています。ぜひご覧ください



不安定・不定形から学ぶこと

校長 若色 昌孝

「ふるひら…」 4 月、着任早々、何度も聞いたワードです。職員に「『ふるひら』…って何ですか？」と訊ねると、「『ふるさと平戸』という本校が大切にしている行事です。3年ぶりに、今年こそ開催できるといいのですが…」と答えが返ってきました。「都会にありながら、豊かな自然と果樹園に囲まれた平戸小学校、あたたかい人々に支えられてきた平戸小学校、この平戸を心から自分の「ふるさと」だと感じられるような行事…、それが『ふるさと平戸』です。」と、以前より平戸小で勤務してきた職員は胸を張りました。

3年ぶりに9月末に開催予定の「ふるひら」では、地域の方を講師にお招きして、お手玉やこま回し、しゅろの葉による虫づくりなど、昭和にタイムスリップしたような活動に取り組みます。

「ふるさと平戸」の当日に、私たち教職員が子どもたちの支援ができるようにと、この夏、行事に先行して地域の方のご指導を受け職員研修!?を行いました。葉っぱの虫づくりでは、職員も悪戦苦闘。でも、子どもたちの喜ぶ顔を思い浮かべ、あきらめずに取り組みました。

横浜市としても学校としても、教育現場では一人一台のタブレット端末やデジタル教材を使い、社会の ICT 化に対応しながら学習を進めています。その現代が求める力を育てつつ、一方で、失われつつある五感をフルに生かした教育も大切にしようとしています。「ふるひら」はまさに、自然の恵みと人のあたたかさを肌で学ぶ大切な時間になると考えています。

ある人生の先輩と山に登ったときに、こう教えていただきました。「こういう歩きにくい山道を歩くと、子どもの脳を育てるんだぞ。自分の足をどの石の上に置くのか、浮き石はないか、滑る根っこはないか。足に不安定さを感じたら、瞬間的に体重バランスを移動させて安定を図る。…高さも幅も安定した階段や、座学では得られない貴重な学びの場だぞ。」この言葉は、まさに、「ふるひら」のねらうところと同じだと感じます。空中に投げられたお手玉を手の甲で受け止めるしなやかさと空間認知、こまに緩すぎずきつすぎず紐を巻き投げ放つ力加減、一枚一枚硬さも大きさも違う自然の葉っぱで虫をつくること…。



不安定さから学ぶこと、不定形から学ぶこと…。デジタルに包まれ育っている子どもたちには、このような不安定や不定形を意図的に学びの場として設定し、人のあたたかさに支えられ課題を乗り越えていくこと…も、とても大切なのではないかと私は考えています。